



## お客さんに喜んでもらうことが何よりの励み

### 表

紙の写真は、色鮮やかな芝桜が咲いている三島和夫さん宅横にある芝桜の丘だ。

庭一面に芝桜が咲き誇ることで有名となった芝桜の丘は、三島さんが一人で管理している。インターネットやテレビ、雑誌などで紹介され、芝桜の丘は、今や倶知安町に欠かさない観光名所となった。

「テレビなどで紹介されるようになって、愛用している麦わら帽子を目印にしているのか、初対面の方もすぐに私を見つけて、話しかけてくれます」

町外はもちろん、道外や国外からも大勢が訪れ、リピーターも多い。三島さんにとって、お客さんとの出会いが最大の楽しみだという。

「お喋りが好きなので、人との出会いは本当に楽しい。みんな歩んでき

た道が違うから、いろんな面白い話が聞けます」

三島さんが芝桜の丘を始めたのは、農家を引退した平成16年。ここまで続けられたのも、お客さんの存在が大きかったと話す。

「芝桜を見に来た人は、皆さん笑顔を見せてくれます。そのことが私のやる気を後押ししてくれました」

三島さんの言う通り、お客さんはみんな笑顔だ。一面に広がる芝桜を見た人の多くが、「すごい」「きれい」と歓声を上げる。ある観光客は「他にも芝桜の花畑はあるけれど、ここは自然にとけ込んでいる雰囲気です」と笑顔で話してくれた。

「喜んでくれる人がいるから、私も来年はもっと良くしたいと思うようになりました」

芝桜の丘には、三島さんの工夫が詰まっている。芝桜で羊蹄山やニセコ連峰を表現したり、遊歩道や休憩小屋を設置するなどの工夫を長年続けてきた。

一人で全てを作り、管理も一人でやっている。並大抵の労力ではない。苦勞の連続だったのではと尋ねると、三島さんは首を横に振った。

「苦しいと感じていたら、ここまでではできなかった。大変なこともあったけど、どれも楽しかった。一人でやっているからこそ、自分のイメージ通りにやることができました」

イメージ通りのものが作れること

に、充実感を感じているという。

「今年は新しく菜の花を植えました。初めてのことなので不安でしたが、とてもきれいに咲いてくれて、大好評でした。来年は、菜の花で羊蹄山を表現したいと考えています」

喜んでくれる人がいるからこそ、工夫は尽きない。今後も体力の続く限り続けていくという。

「春夏秋冬問わず、芝桜は私の生活の一部であり、心の糧です。今が人生で一番幸せだと感じています」

芝桜のことを話す三島さんの顔は、満面の笑みだ。だからこそ、訪れるお客さんも笑顔になるのだろう。今年の芝桜は全て散ってしまったが、来年もまた出合えるだろう。そのときは、ぜひ足を運んでほしい。美しく咲く芝桜を楽しむことができるとは、素晴らしい。

そこで、誰よりも楽しそうにしている麦わら帽子の男性を見かけたら、声をかけてほしい。きっとその男性は、あなたを笑顔で迎えてくれるだろう。